

## 9 貯蔵と保管

### (1) 貯蔵のための加工

枝を落とし、長さをそろえます。薪として保管する場合は25~60cmの長さに切って積みあげてゆきます。またになった部分は片方を切り落とすかまたの部分を除きます。

### (2) 乾燥させる

木材は生の状態で50~60%の水分をもっており、その状態では燃えにくいだけでなく、発熱量も小さくなります。

1度夏を越すと乾燥し、含水率は30%程度になり薪として利用できます。雨に当てないことが大事ですが、ビニールで覆うことは得策ではありません。腐朽させないように風通しの良い環境を作ることが必要です。

## 10 萌芽した若い林の管理

### ・折れやすい萌芽枝

萌芽は樹皮の内部にある潜在芽が大きくなったものです。もともとの枝は幹の中心から分かれており機械的にも丈夫ですが、萌芽枝ははじめは皮の中に浮いた状態となっていますので強度はあまりありません。



台風ではずれた萌芽枝



薪を作る



薪の貯蔵と乾燥



樹皮の中から萌芽枝が生じる (クヌギ)

### 3年間は放置しよう

萌芽枝は切り株の最外側の木部とつながりますが、しばらくは十分な強度はありません。このため2~3年は伐採地に不用意に立ち入ったり、台風などの強風があると枝がはずれることがあります。